

ARAI NEWS

ツーリングや高速走行の後に汚れたシールドを水洗いしたい時や、クリアからスモークへシールド交換したい時など、道具も使わず、部品を無くす心配もないアドシスのようなシステムは、近頃なくてはならないものになったようです。アライが提案したアドシスが広まっていくことは、バイクライフの広がりにもつながり喜ばしい限りです。でも、単にシールドが交換できるかどうかだけに目がいってしまうのもちょっと心配です。そこで今回は、アドシスのようなシールド交換が簡単にできるモデルを選ぶときに後悔しないためのチェックポイントをお教えしましょう。



シールドのロック機構はついていますが。

ビデオでレースの転倒シーンを見ると、転倒した時のはずみでシールドが開いてしまっている例が多々見られます。万一の転倒の際にシールドが開かないほうが良いのは当たり前です。またオープンフェイスのようにシールド面積が大きければ跳ね上げ防止にもロック機構は不可欠です。まず、シールドが安易に開いてしまうのを防止するロック機構がついているかどうか確認してみてください。アライではオープンフェイスのS2でももちろん、フルフェイスタイプでもシールドストッパーの採用をすすめてきました。フルフェイスのシールドストッパーは、シールドを上げる際のフックの役目も兼ねているので通常の

シールド開閉はワンタッチでOKという優れたものです。ストッパーをチョッと上げた状態では、デフォグポジションとして曇り止め効果にも威力を発揮します。そしてシールドを完全に閉めるときのパチンという感触が引き締まるような音もアライは大変気にしています。



シールドのガタツキ感はありませんか。

開放感の高いオープンフェイスではともかく、フルフェイスでは、シールドを上げながら走ることも度々ある事です。シールドを開けた際に、ガタツキ感がないかどうか確認して下さい。世界で初めてアドシスを提案したアライでは、ワンタッチでシールドを開閉できるシステムとして、ホルダーを使用してシールド全体を押さえるシステムを1980年に世界に先駆けて採用しました。このシステムならば、ホルダー全体でシールドをおさえるので、走行中にシールドを開けてもガタツキ感がなく安心できます。また万一転倒した際にも、帽体が当たる前にホルダー、シールドと当たるので2重のセーフティー効果が生まれるという利点もあるのです。



走行中に外れる危険性はありませんか。

外そうと思う時にシールドが簡単に外れるのは便利なことですが、走行中にはどんなアクシデントがあるかわかりません。チョットした衝撃やキッカケで外れてしまうことのないような工夫がされているかどうか必ずチェックして下さい。アライではS2でもフルフェイスタイプでもアドシスと名が付くからに

は、人間が悪意のある動作を加えない限り、シールドは決して外れることのないメカニズムになっています。フルフェイスの場合、シールドを最上段に上げない限りいくらレバーをいじってもホルダーは外れません。またなんらかのアクシデントでホルダーが破損したとしても、シールドはヘルメットから外れてしまうことのないような2重3重のネジ式以上のロック機構がついているのです。このシールドの止め方については、規格で決められているわけではないので、必ず確認する事をお勧めします。



ホルダーの内側の安全性は確保されていますか。

シールドシステムばかりに気をとられているとおぼろげになりやすいのが、ヘルメット本来の目的である安全性です。ヘルメットの剛性は、素材だけでなく、3次元の円面形状によっても得られているものです。シールドの内側に機構を組み込むために、大きなくぼみをつけ、額と帽体の間の緩衝地帯を狭くしたり、帽体表面を平たくしてしまっただけでは安全性に大きな影響を及ぼします。たとえば表面の出っ張りがないでもシールドやホルダーの内側の帽体が安全に出来ているかどうかを確認して下さい。アライのホルダーの内側を見て下さい。どのモデルでも穏やかな円のついた帽体を確認出来ることでしょう。これが一番大切な安全に対する心遣いなのです。



ヘルメットのシールドシステムは、今後開発され続けることですが、安心して使用できるポイントは変わらないはずで、ぜひ覚えておいて下さい。

ヘルメット選びのポイント

理想のシールドシステムはここが違う

(株)アライヘルメット
〒330 埼玉県大宮市東町2-12
TEL(048)641-3825~7



●アフターサービスの窓口は品質管理課です。
製品の事なら、お気軽にご相談ください。
直通 TEL(048)645-3661